

記載要領

様式第4の二（第4条、第5条関係）

屋内タンク貯蔵所構造設備明細書

事業の概要		注1					
タンク専用造	壁	延焼のおそれのある外壁				床	
		その他の壁				出入口	(しきい高さ cm)
	屋	根				その他	注2
建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造		階数	注3	設置階		建築面積	m ²
		建築物の構造概要					
タンクの構造、設備 注4	形状					常圧・加圧 (kPa)	
	寸法					容量	
	材質、板厚						
	通気管	種別		数	内径又は作動圧		
					mm kPa		
	安全装置	種別		数	作動圧		
					kPa		
液量表示装置					引火防止装置	有・無	
注入口の位置		注5			注入口付近の接地電極	注6 有・無	
ポンプ設備の概要		注7					
採光、照明設備		注8		換気、排出の設備		注9	
配管		注10					
消火設備		注11		警報設備		注12	
工事請負者 住所氏名		注13 電話					

備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とすること。

2 建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造の欄は、該当する場合のみ記入すること。

屋内タンク貯蔵所構造設備明細書記載要領

- 注1 事業の概要について具体的に記入する。
- 注2 タンク専用室の建築面積を記入する。
- 注3 「建築物の一部にタンク専用室を設ける場合の建築物の構造」欄は、次により記入する。
ア 建築物全体が屋内タンク貯蔵所になる場合は、記入しない。
イ 建築物の一部に設置する場合は、建物全体についての建物構造を記入する。
- 注4 「タンクの構造・設備」欄は、次により記入する。
ア 「形状」は、タンクの形状を「角型」、「縦置円筒型」等と記入する。
イ 「常圧・加圧」は、該当する形態を記入する。
ウ 「寸法」は、当該タンクの寸法を「縦〇〇mm、横〇〇mm、高さ〇〇mm」等と記入する。
エ 「容量」は、「実容量〇〇リットル、空間容積〇〇リットル（〇〇％）、容量〇〇リットル」等と記入する。
オ 「材質、板厚」は、タンクの材質及び板厚を「底板〇〇mm、側板〇〇mm、屋根板〇〇mm」等と記入する。材質が部材により異なる場合は、底板 SS400 8mm等とする。
カ 「通気管」は、通気管の種別、数、内径又は作動圧を記入する。
（例）フレイムアレスター付大気弁1基 〇〇KPa
キ 「安全装置」は、安全装置の種別、数、作動圧について記入する。
ク 「液量表示装置」は、覚知装置を「自動式液面計」等と記入する。
ケ 「引火防止装置」は、有・無に○を付ける。
- 注5 「注油口の位置」欄は、注油口の位置について「遠方注入口」（別添図面の位置）、「タンク直上」等と記入する。
- 注6 「注入口付近の接地電極」は、有・無に○を付ける。
- 注7 「ポンプ設備の概要」欄は、ポンプ設備の種別（うず巻きポンプ、ギアポンプ等）、数、固定方法、設置位置について記入する。
- 注8 「採光、照明設備」欄は、種別（窓、照明）、防爆構造の種別、数を記入する。
- 注9 「換気、排出の設備」欄は、換気又は排出の別、素材、個数、引火防止網の有無等を記入する。
- 注10 「配管」欄は、使用する配管の材質、口径、継手方法、外面防食方法を記入する。
- 注11 「消火設備」欄は、例えば「第3種二酸化炭素消火設備（全域）」、「第5種（粉末 ABC 消火器 3. 5kg）× 3本」等と記入する。
- 注12 「警報設備」欄は、例えば「加入電話」、「自動火災報知設備」等と記入する。
- 注13 「工事請負責任者住所氏名」欄は、工事を請け負う法人の名称及び住所並びに工事責任者の氏名、電話番号を記入する。